

第20回 皮膚科の臨床 優秀論文賞発表

本誌編集委員会では、昨年（第65巻、2023年）に掲載されたものを対象に優秀論文の選考を行ってまいりましたが、この度、下記論文に第20回「皮膚科の臨床 優秀論文賞」を授与することに決定いたしました。

重症（旧 Herlitz 型）接合部型表皮水疱症の1例

横手 銀珠ほか（福岡市立こども病院，皮膚科）

日齢1，女児。生下時から左肘と指趾に計2%の皮膚欠損と爪甲の脱落があり，日齢1には口腔粘膜，下顎部，臀部，臍部などにびらんを生じていた。病理組織検査で表皮下に水疱形成がみられ，蛍光抗体直接法で laminin332 が完全欠損しており，重症接合部型表皮水疱症と診断した。その後，全身にびらんが拡大し，体重増加不良，低アルブミン血症，慢性炎症と貧血，脱水があり，適宜アルブミン補充，免疫グロブリン投与や輸血も行ったが，徐々に体重減少を認め，月齢7で死亡した。生下時に軽症であっても，爪異常や特に体幹部に水疱があるときは，重症型の表皮水疱症の可能性も疑い，詳細な診察と組織学的検査による病型分類を行う必要がある。

（第65巻 第1号，69-73頁，2023年）

選考評

優秀論文賞の選定にあたっては，まず，文章，図表が視覚的にも内容的にもいわば美しいと感じられるまでに記載されていることを第一の条件とし，それに加えて，臨床的な有益性がどれくらいあるかを評価して最終的に判定しています。本論文においては，そういった観点からみると，明確な診断根拠を含めて，実面的確な症例記載がなされ，考察も要点をつかんで掘り下げられた内容になっています。臨床的有益性として評価した点は，生下時，臨床的には軽症であっても重症接合部型表皮水疱症でありうることを，およびそれを疑うポイントとして体幹部の病変の有無がヒントになることを示している点で，これは，読者に臨床的観察の重要性を教えてくれる意義あるものと考えました。以上，論文記載，臨床的有益性の観点から，本論文は優秀論文賞に相応しい優れた論文であると評価いたしました。

受賞のことば

この度は，2023年度優秀論文賞という素晴らしい賞に選出していただき，誠にありがとうございます。大変光栄に思います。

今回受賞となりました「重症（旧 Herlitz 型）接合部型表皮水疱症（junctional epidermolysis bullosa；JEB）」は，予後が極めて不良であり，ほとんどの症例が1歳未満で死亡します。新生児期に皮膚症状が比較的軽症であっても致死型である場合があるため，特に体幹部に少しでも水疱があるときは，重症型の表皮水疱症の可能性も疑い，詳細な診察と組織学的検査による病型分類を行うことが大切であると痛感しました。また，重症 JEB は発熱と炎症所見が持続し，体重増加不良で死亡する確率がもっとも高く，初期の体重増加が予後を左右するとされ，臨床において参考になると思います。近年，自家培養表皮ジェイス®が難治性または再発性のびらん，潰瘍を有する栄養障害型表皮水疱症と JEB に適用となり，今後の治療に期待が膨らみます。

最後に，選考に携わった先生方，査読および編集者の方々，今回の執筆の際にご指導いただいた先生方に心より御礼を申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



- 受賞論文の筆頭執筆者には，賞状ならびに副賞として金一封・記念品を贈呈いたします。
- 本誌編集委員会では今後も優秀論文賞の選考を行ってまいります。投稿規定を熟読のうえ，奮ってご投稿ください。